



去る7月21日(土)渡辺邸にて、中小田井についてお話を聞く機会に恵まれました。軒先は街道を彩り、中庭にある水琴窟は心地よい音色を響かせ、座敷奥の中庭からは街道の格子戸に向かって、涼やかな風がふき抜けていきます。

渡辺邸は(江戸末期他築)、昨年名古屋市による歴史的登録地域建造物資産(都市景観条例に基づき、築50年以上経過した景観的、文化的価値のある建物)に指定されました。今回渡辺御夫妻のお心遣いで、名古屋在住の画家 前田幸三氏、「棲(すみか)」発行者 兼松春実氏、ご近所の青木様、佐藤様、渡辺氏御子息とお嬢様もまじえ、まちの変遷や歴史的建築物に住まう住み手の想いに触れる場となりました。

なかでも前田氏が、1990年前後の岩倉街道の町なみを描いた絵巻物は圧巻です。A3のトレーシングペーパーを1枚ずつつなげ、黒ボールペン1色で街道左右のまち並みが描かれており、当時の生活をうかがうことができます。まさに絵かと岩倉街道の持つ歴史と住まい手のまちへの想いを体感したひとときといえましょう。

中小田井を知ろう…という漠然としたテーマからスタートしたなか思いがけない素敵な出会いの場となりました。

この集いの場を結びご助言いただいた渡辺御夫妻、兼松氏、絵を展示していただいた前田氏に心から感謝申し上げますとともに、ご参加いただいたみなさまどうもありがとうございました。

